

野付通行屋跡遺跡発掘調査から その9

平成15年度から実施していた「野付通行屋跡遺跡」の発掘調査が、昨年の10月31日をもって終了しました。調査に際しまして、各関係機関及び団体、個人とたくさんの方々にご指導・ご協力をいただきました。誌面を借りてお礼申し上げます。

さて、発掘調査の様子は「郷土資料館だより No.63」（2004年10月発行）以降、調査の目的と意義、様子・調査成果など平成15年度の調査を中心に紹介してきました。平成15年度は、測量・試掘調査で、遺跡の全体像を把握する調査でした。

今月号からは、平成16、17年度で実施した自然崩壊の恐れのある海岸付近の全面発掘の調査成果を紹介していきます。

全面発掘の開始

全面発掘の調査面積は、2,575 m² (H16-900 m²・H17-1,675 m²)で、延べ日数168日、総人工数2,014人を動員しての調査となりました。平成15年度の調査結果から発見が予想されるものは、遺構（竪穴住居跡(建物跡)、土坑、溝などの人間が土地に残した土木的な痕跡の総称。本遺跡の場合は、建物跡や柱穴など）と遺物（土器、石器など、本遺跡の場合は、陶磁器、金属製品など）で、何と言っても建物跡の発見に期待を寄せていました。

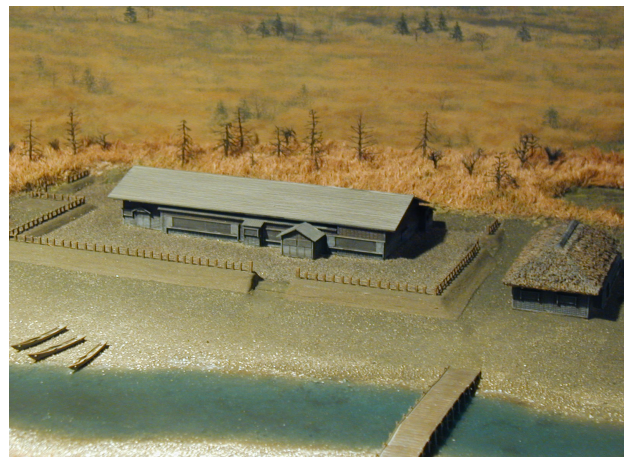
加賀家文書館（2000年開館）には、野付通行屋と対岸にあった野付番屋のジオラマ（模型）を展示しています。これは、「加賀家文書」などの文献史料と江戸時代の数少ない絵図から各々の建物の大きさを割り出し、配置し製作したもので、あくまでも想像のものでした。こうした仕事をしていましたので、それを発掘調査によって検証することが出来ることは、すなわち古文書史料以外のものから野付通行屋の様子を知る絶好の機会を得たわけです。

全面発掘により、遺構では、建物跡2棟、塀か柵の柱穴列2ヶ所、貝塚4ヶ所、遺物では、陶磁器類、金属製品、柱などの木製品などが、約1万点も出土しました。さて、古文書史料やジオラマとの対比は、どうなったのでしょうか？ 次号からのたよりで紹介していきます。

（文責 石渡一人）



西側調査区建物跡（4間×6間）



加賀家文書館ジオラマ（通行屋部分）

「加賀家文書」の調査研究から ～その 2 2

調査員 戸田 峯雄

1. 分かったことなど

加賀家文書の中の伝蔵が書いた「御目見附添日記」、根室からは、庄屋後見役の仁助ーベツカイ（本別海）住居 58 歳・総年寄役の陣平ー子モロ（根室会所元）住居 49 歳・名主役の重助ークン子ベツ（標津町薫別）住居 49 歳、付添役の長助ーベツカイ（本別海）住居 25 歳・作蔵ーウエンベツ（羅臼町植別）住居 25 歳の 5 人のアイヌとノツケ通行屋の伝蔵 55 歳が付添通訳として、厚岸・釧路場所からもアイヌ 5 人ずつと通訳各一人ずつの総勢 18 人であった。（再掲載）

箱館迄の道程は、風待や風雨などで滞在を余儀なくされた日数も含めると、一か月と 10 日もかかったことになる。箱館での滞在は 17 日間、帰路は船旅ではあったが、約半月程もかかっている。この間の記録は、書かれていたのかも含めて、不明である。

とはいえ、この日記から多くのことが分かる。それらを箇条書きにしてみる。

1. 箱館迄の道程～今風に言えば、根室を船で発ち風蓮湖岸の厚別へ、ここから内陸の「風蓮越」の道を通り、厚岸へ。ここから船で対岸に渡り、センハウシ（伝蔵はこの番家守をしていたことがあった）太平洋岸（釧路町）を釧路、白糠、尺別（伝蔵はこの止宿守もしていたことがあった）十勝に入って大津、日高の太平洋岸の様似、勇払、幌別、室蘭、虻田（ここで、調役喜多野様と会える筈だった）また、室蘭からは船で長万部まで、このあとは陸路を山越内（ここからは和地の道中となる）大野、箱館のお店へ到着した。

2. 箱館の様子①新旧奉行の交替、青森から二本柱の船ー「箱館丸」ー日本で最初の西洋

型の帆船ー見よう見真似で日本人が箱館で造った。この船だと、江戸からでも 10 日あまりで来れるようになった。前年の安政 5 年に箱館奉行の村垣淡路守が蝦夷地を巡回した時は、根室からこの「箱館丸」に乗船して、国後、択捉と回り、知床岬廻ってオホーツク海に出て、宗谷からさらに樺太（サハリン）へ直航した程の優れた帆船であったようだ。復元船が函館にある。②弁天台場、大砲（筒）、番人宿、夜店、餅・りんごを買う、③見物の品々ー鎧・兜、金銀巻きの陣刀、金銀青銅細工の弁財船、行器・金蒔絵銀の壁掛・カッコウ時計・虎の皮、ロシア・米国・英国・オランダ・広東の五か国王の衣服、掛け物、神社の参詣、④米国人に話し掛けられる⑤そばを食べる⑥南部・津軽・秋田様の陣屋⑦茶屋でうどんを食べる⑧築島で二本柱の造船を見るー「亀田丸」ー外国への交易にも使われる⑨奉行の竹内下野守にもお目見え（後に根室にも廻浦する）⑩アイヌの踊りを披露する（松前様のお屋敷）⑪ご馳走⑫土産物⑬茶屋のもてなし⑭出帆

郷土資料館・加賀家文書館のお知らせ
1 月（■は休館日）

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

- 開館時間 午前 9 時～午後 5 時（入館は午後 4 時 30 分まで）
- 観覧料 一般個人 300 円 一般団体（10 名以上）240 円
高校生以下は無料となります。

別海町郷土資料館だより No.78

発行日 平成 18 年 1 月 1 日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町 30 番地

電話 0153-75-0802（FAX 兼）

e-mail kyoudo@betsukai.gr.jp

編集後記 5 月から 10 月一杯まで、野付の現場で調査していました。3 年間通い、いつも心配していたことは、海水の影響でした。年を重ねるごとに水への対応が上手くいったのも一緒に調査に携わっていただいた作業員の方々のお陰で、これにより調査の精度があがっていったのは、言うまでもありません。（石渡）